

みやま市立小中学校再編計画

平成 2 3 年 9 月策定

平成 2 5 年 1 1 月改定

みやま市教育委員会

目 次

はじめに

1. 学校規模等の現状及び将来推計	2
(1) 学校規模等の現状	
(2) 将来推計	
2. 学校規模等の小規模化に係る課題	2
3. 再編基準	2
(1) 小学校の適正な規模	3
(2) 中学校の適正な規模	3
4. 実施計画における基本的な考え方	
(1) 再編の手法	3
(2) 学校統合協議会の設置	3
(3) 学校施設の整備	3
(4) 学校の位置	3
(5) 遠距離通学への対応	4
(6) 地域住民組織への対応	4
(7) 学校跡地の活用	4
5. 学校再編整備にあたっての配慮事項	4
6. 具体的な再編策	5
(1) 小学校（再編に係る学校数…13校）	
① 飯江小学校と竹海小学校と山川東部小学校と山川南部小学校	5
② 下庄小学校と上庄小学校と本郷小学校	6
③ 清水小学校と水上小学校	7
④ 江浦小学校と開小学校と二川小学校と岩田小学校	8
(2) 中学校（再編に係る学校数…2校）	9
① 瀬高中学校と東山中学校	
7. 今後の再編について	9

はじめに

平成19年1月29日、旧瀬高町、旧山川町、旧高田町の三町が合併し、みやま市が誕生しました。合併を機に児童生徒の安全上の観点から、旧町の境を越えて近くの学校に就学したいという要望も出はじめました。そこで、同年11月14日にみやま市教育委員会より「通学区域に係る今後の在り方」について「通学区域検討委員会」に諮問し、平成20年12月5日に最終答申をいただきました。答申では、平成21年度から飯江小学校の通学区域が山川中学校に変更されたほか、旧町間をまたぐ場合は通学距離による弾力的運用を図ることとなりました。また、同答申は、「本市内の学校規模の適正化については、指定校の弾力的運用や通学区域の見直しでは解決できない側面がある」と結ばれています。本市におきましても少子高齢化が急速に進むなかで、児童生徒数の減少傾向が続いており、数年内には複数の小学校で複式学級を有することとなる見込みです。また、小規模の中学校においては近い将来、学年1クラスとなると推計されています。このようなことから、平成21年7月31日、「学校の適正規模及び適正配置」について、「学校規模適正化検討委員会」へ諮問しました。

この「学校規模適正化検討委員会」には、みやま市内の各界各層から、具体的には市議会議員、行政区長、小中学校PTA、小中学校長の代表者及び識見を有する方、さらに一般公募の方など26人の委員により、1年半にわたり慎重に検討をいただき、平成22年12月27日に答申をいただきました。この検討委員会からの答申を十分に尊重するとともに財政面等を考慮しながら、平成23年3月30日にみやま市教育委員会において、「みやま市立小中学校再編計画（案）」を決定しました。

なお、同じ児童が在学中に2度の統合にあわないよう配慮したことで、2つのグループの統合時期について、答申内容を修正し計画（案）としました。すなわち飯江小学校、竹海小学校、山川東部小学校及び山川南部小学校の4校統合を答申より1年遅れとしたこと、江浦小学校、開小学校、二川小学校及び岩田小学校の4校統合について、2段階方式での統合という答申内容に対し、平成31年度以降に先送りし4校を一緒に統合するとしたことです。

この計画（案）の住民説明会については、4月下旬から7月末までの約3ヶ月に亘り、前半は単位PTAの皆様を、後半には全ての校区住民の皆様を対象に実施しました。同時にパブリックコメントや教職員へも意見を募集しました。説明会での質疑応答等を通じて、計画（案）については、概ね住民のご理解をいただいたものと判断をいたしました。

教育委員会といたしましては、説明会等でのご意見をもとに計画（案）の必要な修正を行い、財政計画等に係る市長協議を経て、「みやま市立小中学校再編計画」として決定したものです。計画（案）の修正点は2点あります。1点目は江浦小学校、開小学校、二川小学校及び岩田小学校との統合校の位置を再検討すること、2点目は統合に伴う中学校通学距離の基準を上回る地域について、スクールバスの運行を統合協議会で検討することとしたことです。

たくさんの友だちと一緒に切磋琢磨しながら、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、社会の一員としての自覚を持って行動できる子どもを育てるためには、子どもが学びやすい学校規模であることが必要であり、本計画による学校再編を実施することにより、その実現を図っていきます。

1. 学校規模等の現状及び将来推計

(1) 学校規模等の現状（資料1、資料2参照）

10年前の平成12年度と比較すると、平成22年度においては、児童数は2,685人から2,043人へと76.1%、約3/4に減少している。生徒数も1,686人から1,103人へと65.4%、約2/3に減少している。

みやま市内の現在の学校数は、小学校15校、中学校4校である。平成23年度の学級数は、小学校では、4学級（複式編制2学級）の学校が2校、6学級が10校（67%）、8学級、9学級、12学級がそれぞれ1校ずつとなっている。中学校については、5学級、6学級、10学級、12学級が1校ずつとなっている。

(2) 将来推計（資料3、資料4、資料5参照）

出生数が把握できる範囲で推計を行ったため、小学校は平成29年度まで、中学校は平成32年度までの推計としている。平成23年度以降も児童生徒数は漸減し、平成29年度には平成23年度に比べ、児童は約16%、生徒は約6%程度減少する見込みである。個別に見てみると竹海小学校は数年後には複式学級を有することとなり、東山中学校は平成31年度には3学年とも単学級になる見込みである。

2. 学校規模等の小規模化に係る課題

文部科学省においては、全校で12学級未満の学校は小規模校として分類されており、このような小規模校については、小規模校なりの「よさ」があると言われており、その最たるものが、「子ども一人一人に目が行き届きやすい」という点にあるとされる。しかし、こういったメリットについては、必ずしも小規模校である必要はなく、少人数指導等により可能になると思われる。一方で、人数が少ないことによりスポーツのチームが組めないなどのデメリットは、小規模校では解消が困難である。また、小規模校では教職員数が少ないため学校運営面からも課題が大きい。

教育の機会均等と子どもたちの教育環境の維持向上を図る観点から、学校規模の格差による教育上の問題を解消し、できるだけ適正規模となるよう学校再編を行うものである。

なお、小規模校のメリット・デメリットは、文部科学省が作成した「学校規模によるメリット・デメリット」の小規模化部分の抜粋によると（資料6）のとおりである。

3. 再編基準

みやま市としての適正な学校規模については、学校規模における問題点、学校教育法施行規則、小学校設置基準、中学校設置基準等の法令、近隣市町村の学校再編計画における適正学校規模の基準、本市の現在の小・中学校の規模や地理的条件などを勘案し、次の（1）及び（2）に示す規模を基準とする。小中学校ともに各学年で2学級以上が望ましい。

なお、再編の対象校は、複式学級を有する学校並びに全学年が単学級の学校、とりわけ全学級が児童数20人以下の学校を優先的に取り組んでいくこととする。

(1) 小学校の適正な規模

- ・ 1 学級当たりの児童数 20～30人 (低学年)
20～35人 (中・高学年)
- ・ 学校の適正な学級数 12～18学級 (各学年2～3学級)
- ・ 学校全体の適正な児童数 240～540人

(2) 中学校の適正な規模

- ・ 1 学級当たりの生徒数 2 5 ～ 3 5 人
- ・ 学校の適正な学級数 6 ～ 1 5 学級 (各学年 2 ～ 5 学級)
- ・ 学校全体の適正な生徒数 1 5 0 ～ 5 2 5 人

4. 実施計画における基本的な考え方

(1) 再編の手法

学校の統合に際しては、対象校をいずれも閉校し新設校を開校するという「新設統合」を基本にすすめる。すなわち、学校施設についてはできるだけ既存のものの有効利用を図っていくが、学校名や校歌、校章、制服等については、今までのものは一旦廃止し、あらためてつくることとする。学校の名称は関係校区民の意見、要望を尊重し、教育委員会で決定する。

(2) 学校統合協議会の設置

新設の学校毎に統合の２年前をめどに、対象校の教職員及び保護者、地域住民等で構成する学校統合協議会を設置する。この協議会では、新設する学校の校名案や校歌、校章に関するもののほか、通学路の安全対策やＰＴＡ組織の再編、施設整備、閉校となる学校の資料保存、学童保育やアンビシャス広場の継続など、新設校に円滑に移行するための様々な課題について協議を重ねていくこととする。学校統合協議会の設置要綱は教育委員会で別に定める。

なお、協議の内容は、市のホームページや関係者へ配布するニュースなどを通じて、積極的に情報提供を行い、教育委員会はその協議された内容を尊重して計画実施にあたることとする。

(3) 学校施設の整備 (資料7参照)

本市の小中学校の施設については、全て耐震工事が完了している。したがって、新設する学校の施設については、できるだけ既存のものの有効利用を図ることとするが、施設の状況や統合校区内の位置関係によっては新設により対応する。少子化による学校規模の縮小は確実に進行しており、早期の再編が求められる状況にあるが、本市の財政状況では短期間に複数の統合に取り組むことは困難である。したがって、緊急性の高いものから順次実施していくこととする。

なお、施設整備の経費については、国県からの補助等を積極的に活用して整備を進めるものとする。

(4) 学校の位置

新設する学校の位置は、新しい通学区域の中央付近に配置することを基本とするが、

統合後の通学区域のバランス、校舎の状況や通学上の安全性、既存施設の有効活用等を総合的に判断することとする。

(5) 遠距離通学への対応

統合に伴い通学路も変更になることから、街灯の設置や歩道の整備等、通学路全般について安全を確保できるように進めていく。また、統合により通学距離が伸びることへの対応として、児童の登下校時の安全確保と負担軽減の観点から、通学距離による一定の基準を設けて、スクールバスを運行することとする。小学校の通学距離の基準は、法令上では概ね4 km以内となっており、この距離を目安に運行することとなるが、運行ルート、運行回数、運行時間、停留所等の設定等も含めて、地域の実情、学校や保護者の要望等を踏まえ統合協議会で決定していく。また、統合後においても通学の安全性への配慮から、スクールバスの運行についてはきめ細かに見直しを行うこととする。

なお、中学校の通学距離の基準は、法令上では概ね6 km以内となっており、統合に伴ってこの基準を上回る地域については、スクールバスの運行も視野に入れて通学路の安全確保について統合協議会で検討することとする。

(6) 地域住民組織への対応

学校は地域の伝統文化を生かした特色ある教育活動を行っている。また、学校行事への参加や通学路の見守り活動など、様々な形で地域の方々から協力をいただいている。将来の地域活動の担い手である子どもたちを健やかに育むため、学校と地域の協力関係が維持できるように取り組みを進めていくこととする。

なお、地域には校区公民館等の地域コミュニティ組織があり、基本的には学校統合後も引き続き現在のエリアにおける組織を維持することとするが、地域組織の統合については地域の方々の判断を尊重していくこととする。

(7) 学校跡地の活用

学校は災害時の避難所として、また地域のサークル活動などにも利用されている。学校施設や跡地の利用については、統合協議会での協議と並行し、学校跡地活用検討委員会（仮称）を設置し、地域のご意見やご要望をお聞きしながら、全庁的な観点から総合的に検討を進めることとする。学校跡地活用検討委員会（仮称）の設置要綱は市長が別に定める。

5. 学校統合にあたっての配慮事項

- (1) 統合の対象となる学校については、児童生徒がもつ事前の不安や戸惑いに適切に対応するため、児童生徒、教職員、保護者間の事前の各種交流事業等を支援するとともに、あらかじめ学校運営の整合を図るよう努めることとする。児童生徒の交流事業については、統合協議会の設置を機に統合対象校毎に交流学習担当を設け、通常の教育活動に無理を生じないように、また児童の実態を十分に踏まえて計画的に実施することとする。

- (2) 統合後の混乱や不安を防ぐため、また統合後の学校で円滑な学校生活がスタートできるよう、統合対象校からの継続的な教員の配置などケア対策に努めることとする。

6. 具体的な再編策

再編の時期は、平成23年度から平成32年度までの10年間を、前期と後期5年ずつに分けて実施する。前期は、複式学級の解消が緊急の課題であるので、複式学級を有する学校を対象に取り組んでいく。後期は、児童生徒数の推計を見極めながら、前期に引き続き再編を行っていくこととする。

なお、本計画の期間中に児童生徒数の大きな変動があったとき、あるいは国の制度改正等があった場合には、必要に応じて計画の見直しを行うこととする。

(1) 小学校（再編に係る学校数…13校）

①飯江小学校と竹海小学校と山川東部小学校と山川南部小学校

平成23年度から29年度までの学級数及び児童数の推移予測

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
飯江小	学級数	4	5	4	4	4	4	5
	児童数	42	45	44	40	40	45	49
竹海小	学級数	6	6	6	5	5	4	4
	児童数	83	75	68	69	62	57	48
山川東部小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	182	172	173	162	149	137	126
山川南部小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	62	60	66	68	70	67	70
統合後	学級数	12	12	12	12	12	12	12
	児童数	369	352	351	339	321	306	293

※「統合後」欄の数値は既に統合されたと仮定したもの。

※学級数は小学校1年生の学級編制のみ35人として算出した。

平成23年度の学級編制の状況は、4校とも全学年が単学級であり、竹海小学校、山川南部小学校については全学級が児童数20人以下、飯江小学校については複式学級を有している。竹海小学校も数年内には複式学級を有することとなる見込みである。そのため、緊急な対応が必要となっており、上記の4校を統合し新しい小学校を山川中学校に併設する。体育館、プール及びグラウンドについては中学校と共有することとしており、児童生徒の安全性の確保と教育効果を高めるためカリキュラムの工夫を行う。また、小中連携や小中一貫教育を視野に入れた取り組みを行うため、みやま市における小中連携や小中一貫教育のあり方について専門の委員会を早急に立ち上げ、検討に入ることとする。

なお飯江小学校については、複式学級によって生じる課題を軽減するために、みやま市独自で少人数講師を配置しているが、4校の統合までは今後も支援を継続していくこととする。

ア 開校の時期

平成28年4月1日に新設校を開校する。

イ 学校の位置

現山川中学校を学校位置とする。

ウ 通学区域

原則として、飯江小学校通学区域全域、竹海小学校通学区域全域、山川東部小学校通学区域全域及び山川南部小学校通学区域全域とする。

エ 施設整備

新しい小学校を山川中学校の敷地内に併設する。体育館、プール及びグラウンドについては中学校と共有することとしており、小学生と中学生が同じ施設を使用する場面も多くなると考えられることから、新設する校舎等の位置及び構造等については、児童生徒の安全面に十分配慮することとする。

オ 学校統合協議会の設置

学校統合協議会を平成26年度当初に設置する。

カ スケジュール

学校統合協議会の設置	平成26年4月
新設校の校名の決定 通学路の安全対策 校歌、校章等の作成 カリキュラムの調整 交流学习の展開	平成26年4月～平成28年3月
施設整備完了	平成28年2月
4校の閉校	平成28年3月
新設校の開校（現山川中学校に併設）	平成28年4月

②下庄小学校と上庄小学校と本郷小学校

平成23年度から29年度までの学級数及び児童数の推移予測

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
下庄小	学級数	10	11	11	11	12	11	11
	児童数	261	270	263	264	261	269	261
上庄小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	98	92	94	88	82	81	81
本郷小	学級数	4	4	4	4	4	4	4
	児童数	47	45	46	45	44	41	44
統合後	学級数	12	13	12	12	12	12	12
	児童数	406	407	403	397	387	391	386

※「統合後」欄の数値は既に統合されたと仮定したもの。

※学級数は小学校1年生の学級編制のみ35人として算出した。

平成23年度の学級編制の状況は、上庄小学校は全学年が単学級で6学級中5学級

が児童数20人以下、本郷小学校は現在複式学級を有しており、ここでも複式の解消が緊急の課題であるが、財政面等を考慮し、統合校の開校は上記①より一年後の平成27年度とする。

なお、本郷小学校については、複式学級によって生じる課題を軽減するために、みやま市独自で少人数講師を配置しているが、3校の統合までは今後も支援を継続していくこととする。

ア 開校の時期

今後状況に応じて定める。

イ 学校の位置

現下庄小学校を学校位置とする。

ウ 通学区域

原則として、下庄小学校通学区域全域、上庄小学校通学区域全域及び本郷小学校通学区域全域とする。

エ 施設整備

統合後の食数に対して給食の調理施設が不足する見込みであるので、増設して対応する。運動場は文部科学省の基準を満たしてはいるものの、一人あたりの面積は確実に狭くなるので、創意工夫をして利用することとする。教室等については増設の必要はない。

③清水小学校と水上小学校

平成23年度から29年度までの学級数及び児童数の推移予測

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
清水小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	100	95	85	78	72	72	64
水上小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	176	169	160	165	168	157	157
統合後	学級数	12	10	10	9	9	9	8
	児童数	276	264	245	243	240	229	221

※「統合後」欄の数値は既に統合されたと仮定したもの。

※学級数は小学校1年生の学級編制のみ35人として算出した。

平成23年度の学級編制の状況は、2校とも全学年が単学級であり、清水小学校については全学級が児童数20人以下である。統合後の小学校は現在の東山中学校の施設を整備して活用することとする。したがって、統合校の開校は中学校統合後の翌年、平成29年度とする。

ア 開校の時期

今後状況に応じて定める。

イ 学校の位置

現東山中学校を学校位置とする。

ウ 通学区域

原則として、清水小学校通学区域全域及び水上小学校通学区域全域とする。

エ 施設整備

中学校の施設を継続使用するため小学校用に整備する。

④江浦小学校と開小学校と二川小学校と岩田小学校

平成23年度から29年度までの学級数及び児童数の推移予測

学校名	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
江浦小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	98	105	102	97	93	83	80
開 小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	109	99	97	91	88	80	69
二川小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	162	162	172	176	178	169	174
岩田小	学級数	6	6	6	6	6	6	6
	児童数	155	165	170	163	149	134	115
統合後	学級数	16	17	18	17	16	15	14
	児童数	524	531	541	527	508	466	438

※「統合後」欄の数値は既に統合されたと仮定したもの。

※学級数は小学校1年生の学級編制のみ35人として算出した。

平成23年度の学級編制の状況は、4校とも全学年が単学級であり、江浦小学校は全学級が児童数20人以下、開小学校は5学級が20人以下である。統合校の開校は平成31年度以降とする。

ア 開校の時期

今後状況に応じて定める。

イ 学校の位置

今後の児童数の推移や経済状況を見極め、市の財政面等を考慮し、慎重に検討する。すなわち、既存施設の有効活用の観点、及び小中一貫教育の推進の観点からは、現高田中学校に併設することが望ましいが、現4校の通学区域の中央付近ではないので、あらたな用地を取得することも含めて検討していく必要がある。

ウ 通学区域

原則として、江浦小学校通学区域全域、開小学校通学区域全域、二川小学校通学区域全域及び岩田小学校通学区域全域とする。

(2) 中学校（再編に係る学校数…2校）

①瀬高中学校と東山中学校

平成23年度から32年度までの学級数及び生徒数の推移予測

学校名	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
瀬高中	学級数	12	12	12	13	13	13	12	12	12	12
	生徒数	440	423	403	430	444	452	408	385	379	388
東山中	学級数	5	5	5	6	6	6	5	4	3	4
	児童数	146	142	135	143	146	141	133	119	107	114
統合後	学級数	16	16	15	16	16	16	15	14	14	14
	児童数	586	565	538	573	590	593	541	504	486	502

※「統合後」欄の数値は既に統合されたと仮定したもの。

統合後の中学校は、現在の瀬高中学校の施設を活用する。統合しなければ東山中学校は平成29年度以降に順次学年1クラス、平成31年度には3学年とも単学級になる見込みである。このようなことから統合校の開校は平成28年度とする。

なお、統合時に3年生に進級する生徒については、新たな人間関係の構築に加えて最終学年での部活や受験等が控えており、それらへの影響をできるだけ少なくするため統合前の交流事業を充実する。

また、進学できる高校は住所地で規定されているため、統合後の中学校においてすべての生徒が進学できない高校がでてくるが、この点については高校の受験制度の改正を求めていくこととする。

ア 開校の時期

今後状況に応じて定める。

イ 学校の位置

現瀬高中学校を学校位置とする。

ウ 通学区域

原則として、瀬高中学校通学区域全域及び東山中学校通学区域全域とする。

エ 施設整備

教室数等の施設の規模については問題ないが、老朽化が進んでいることから、必要に応じて改装する必要がある。

7. 今後の再編について

児童生徒数は今後も減少傾向にあることから、本計画で再編の対象としなかった小学校においても、今後小規模化が進むことが予測される。そのため、学校規模に関する国の動向を注視しながら、新たな再編計画を策定し小学校の適正規模確保に努めることとする。

みやま市立小中学校再編計画 資料集

- 資料1 みやま市立小学校 児童数推移
- 資料2 みやま市立中学校 生徒数推移
- 資料3 みやま市立小学校 学年別児童数の推計
- 資料4 みやま市立小学校 学級数及び全校児童数の推計（再編しない場合）
- 資料5 みやま市立中学校 学級数及び全校生徒数の推計（再編しない場合）
- 資料6 学校規模によるメリット・デメリット（例）
- 資料7 みやま市立小中学校 施設の状況

資料1、資料2

小学校児童数推移(5月1日現在)

資料1

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
本郷小	84	77	72	70	64	56	57	52	51	49	47
上庄小	143	135	145	141	138	133	122	109	106	103	101
下庄小	340	326	309	306	300	295	288	280	285	270	261
大江小	289	295	287	272	255	261	251	217	231	242	250
南小	291	273	264	258	239	234	225	212	212	213	206
水上小	191	203	210	208	213	211	210	194	182	183	181
清水小	183	177	163	139	132	106	108	110	108	105	97
山川東部小	211	200	195	194	197	193	191	179	180	189	183
山川南部小	122	110	100	92	84	74	72	66	68	65	68
飯江小	99	92	88	85	89	81	71	69	65	57	44
岩田小	172	158	144	145	144	138	135	135	144	144	152
二川小	170	169	173	172	178	177	178	162	164	158	156
江浦小	137	134	117	115	106	105	100	103	101	95	106
開小	151	132	135	134	122	119	121	115	113	105	106
竹海小	102	113	110	110	113	110	106	97	96	92	85
合計	2,685	2,594	2,512	2,441	2,374	2,293	2,235	2,100	2,106	2,070	2,043

出典:教育春秋社「職員録」より

中学校生徒数推移(5月1日現在)

資料2

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
瀬高中	636	629	620	611	571	520	497	493	491	483	445
東山中	224	204	191	205	184	184	161	172	170	172	172
山川中	234	226	208	181	153	139	136	132	135	140	151
高田中	592	506	457	414	403	395	379	367	342	354	335
合計	1,686	1,565	1,476	1,411	1,311	1,238	1,173	1,164	1,138	1,149	1,103

出典:教育春秋社「職員録」より

学年別児童数の推計

(注)小学6年から小学1年までの人数は平成23年5月1日現在の実数、平成24年度以降に小学校に入学する学年の人数は平成23年9月1日現在の住民基本台帳による。

学年または 入学予定年度	6年	5年	4年	3年	2年	1年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H23計
本郷小	12	6	10	5	8	6	10	7	9	4	5	9	47
上庄小	19	9	21	19	16	14	13	11	15	13	15	14	98
下庄小	40	51	45	39	42	44	49	44	46	36	50	36	261
大江小	32	32	50	49	44	26	27	27	29	29	23	28	233
南 小	33	29	41	38	25	33	26	41	28	28	34	28	199
水上小	26	35	28	28	36	23	19	26	33	31	25	23	176
清水小	15	20	19	16	14	16	10	10	12	10	14	8	100
山川東部小	32	28	28	37	30	27	22	29	17	24	18	16	182
山川南部小	14	6	12	7	11	12	12	12	14	9	8	15	62
飯江小	7	8	9	8	5	5	10	7	5	8	10	9	42
岩田小	16	18	34	29	31	27	26	23	27	15	16	8	155
二川小	29	19	27	29	32	26	29	29	31	31	23	31	162
江浦小	11	16	17	18	20	16	18	13	12	14	10	13	98
開 小	21	16	20	11	18	23	11	14	14	8	10	12	109
竹海小	15	16	9	13	14	16	7	9	10	6	9	7	83
計	322	309	370	346	346	314	289	302	302	266	270	257	2,007

飯江小学校と竹海小学校と山川東部小学校と山川南部小学校の4校が統合した場合

学年または 入学予定年度	6年	5年	4年	3年	2年	1年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H23計
飯江小	7	8	9	8	5	5	10	7	5	8	10	9	42
竹海小	15	16	9	13	14	16	7	9	10	6	9	7	83
山川東部小	32	28	28	37	30	27	22	29	17	24	18	16	182
山川南部小	14	6	12	7	11	12	12	12	14	9	8	15	62
計	68	58	58	65	60	60	51	57	46	47	45	47	369

下庄小学校と上庄小学校と本郷小学校の3校が統合した場合

学年または 入学予定年度	6年	5年	4年	3年	2年	1年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H23計
下庄小	40	51	45	39	42	44	49	44	46	36	50	36	261
上庄小	19	9	21	19	16	14	13	11	15	13	15	14	98
本郷小	12	6	10	5	8	6	10	7	9	4	5	9	47
計	71	66	76	63	66	64	72	62	70	53	70	59	406

清水小学校と水上小学校の2校が統合した場合

学年または 入学予定年度	6年	5年	4年	3年	2年	1年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H23計
清水小	15	20	19	16	14	16	10	10	12	10	14	8	100
水上小	26	35	28	28	36	23	19	26	33	31	25	23	176
計	41	55	47	44	50	39	29	36	45	41	39	31	276

江浦小学校と開小学校と二川小学校と岩田小学校の4校が統合した場合

学年または 入学予定年度	6年	5年	4年	3年	2年	1年	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H23計
江浦小	11	16	17	18	20	16	18	13	12	14	10	13	98
開 小	21	16	20	11	18	23	11	14	14	8	10	12	109
二川小	29	19	27	29	32	26	29	29	31	31	23	31	162
岩田小	16	18	34	29	31	27	26	23	27	15	16	8	155
計	77	69	98	87	101	92	84	79	84	68	59	64	524

資料4

みやま市立小学校 学級数及び全校児童数の推計(再編しない場合)

上段:学級数、下段:児童数

平成23年9月1日推計

学校名	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
本郷小	4	4	4	4	4	4	4
	47	45	46	45	44	41	44
上庄小	6	6	6	6	6	6	6
	98	92	94	88	82	81	81
下庄小	10	11	11	11	12	11	11
	261	270	263	264	261	269	261
大江小	9	9	9	8	7	6	6
	233	228	223	202	182	161	163
南 小	7	7	8	7	7	7	7
	199	192	204	191	181	190	185
水上小	6	6	6	6	6	6	6
	176	169	160	165	168	157	157
清水小	6	6	6	6	6	6	6
	100	95	85	78	72	72	64
山川東部小	6	6	6	6	6	6	6
	182	172	173	162	149	137	126
山川南部小	6	6	6	6	6	6	6
	62	60	66	68	70	67	70
飯江小	4	5	4	4	4	4	5
	42	45	44	40	40	45	49
岩田小	6	6	6	6	6	6	6
	155	165	170	163	149	134	115
二川小	6	6	6	6	6	6	6
	162	162	172	176	178	169	174
江浦小	6	6	6	6	6	6	6
	98	105	102	97	93	83	80
開 小	6	6	6	6	6	6	6
	109	99	97	91	88	80	69
竹海小	6	6	6	5	5	4	4
	83	75	68	69	62	57	48
計	94	96	96	93	93	90	91
	2,007	1,974	1,967	1,899	1,819	1,743	1,686

※ 平成23年度は平成23年5月1日現在の実数、平成24年度以降については平成23年5月1日現在の実数及び平成23年9月1日現在の住民基本台帳による出生数に基づき算出した。

※ 学級数は小学校1年生の学級編制のみ35人として算出した。

資料5

みやま市立中学校 学級数及び全校生徒数の推計(再編しない場合)

上段:学級数、下段:児童数

平成23年9月1日推計

学校名	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
瀬高中	12	12	12	12	12	12	11	10	10	10
	440	423	403	430	444	452	408	383	378	382
東山中	5	5	5	6	6	6	5	4	3	4
	146	142	135	143	146	141	133	118	104	110
山川中	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5
	150	154	141	144	143	147	142	134	136	128
高田中	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	334	302	282	284	292	322	323	314	287	273
計	33	32	32	33	33	33	31	29	28	28
	1,070	1,021	961	1,001	1,025	1,062	1,006	949	905	893

※ 平成23年度は平成23年5月1日現在の実数、平成24年度以降については平成23年5月1日現在の実数及び平成23年9月1日現在の住民基本台帳による出生数に基づき算出した。

学校規模によるメリット・デメリット（例）

	メリット	デメリット
学 習 面	○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○1 学年 1 学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。
	○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。
		○部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
生 活 面	○児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○異学年間の縦の交流が生まれやすい。	○クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。
	○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。	○組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
学 校 運 営 面 ・ 財 政 面	○全教職員間での意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○学校が一体となって活動しやすい。	○教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。
	○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	○子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。
そ の 他	○保護者や地域社会との連携が図りやすい。	○PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

※ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/038/siryo/08120806/001.htm
 学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成したもの。

みやま市立小中学校 施設の状況

資料 7

【各学校の校舎建築年度】増改築がある場合は当初の建築年度を表示している。

建築年代	小学校（全 15 校）	中学校（全 4 校）
昭和 30 年代	水上小学校（S 39）	
昭和 40 年代	清水小学校・開小学校（S 43） 大江小学校・二川小学校（S 49）	東山中学校（S 40）※H13 に改修 瀬高中学校（S 48）
昭和 50 年代	江浦小学校（S 50） 竹海小学校（S 52） 岩田小学校（S 53） 山川南部小学校（S 54） 山川東部小学校（S 55） 南小学校（S 57） 飯江小学校（S 58）	高田中学校（S 57）
昭和 60 年代		
平成以降	本郷小学校（H5） 上庄小学校（H10） 下庄小学校（H16）	山川中学校（H22）

※昭和 56 年以前の旧耐震基準で建設された施設については、平成 22 年度末までに耐震補強工事を完了している。

【各学校の施設規模】

学校名	敷地面積（㎡）	校舎延べ床面積（㎡）	その他施設の面積（㎡）
本郷小学校	8,484	2,100	体育館 600
上庄小学校	12,377	2,505	体育館 600
下庄小学校	17,391	5,306	体育館 800
大江小学校	17,616	3,883	体育館 725
南小学校	15,111	3,002	体育館 725
水上小学校	16,806	3,323	体育館 600
清水小学校	11,337	3,200	体育館 600
山川東部小学校	17,047	3,051	体育館 528
山川南部小学校	12,946	2,318	体育館 601
飯江小学校	12,271	1,962	体育館 518
岩田小学校	18,625	2,593	体育館 533
二川小学校	34,518	2,943	体育館 527
江浦小学校	11,945	2,580	体育館 536
開小学校	17,548	2,368	体育館 519
竹海小学校	13,966	1,938	体育館 508
瀬高中学校	28,267	7,079	体育館 1,328 柔剣道場 500
東山中学校	25,743	3,987	体育館 1,148 柔剣道場 336
山川中学校	27,368	3,577	体育館 1,118 柔剣道場 450
高田中学校	35,704	5,898	体育館 1,261